

葛城市地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

- 人口 平成22年国勢調査35,859人程度の維持
- 産業構造 第1次、2次産業は10年連続で減少、3次産業は平成17年以降微減が続いている。構成比では3次産業の増加が続き大都市圏のベッドタウンとなっていることが考えられる。
- 財政動向 人口は横ばいが予測されるものの、高齢化率が上がることで、社会保障費の増大、労働人口の減少による税収減が見込まれるため、行政サービスの維持・向上と財政負担の軽減を両立させる必要がある
- 基本方針 住みよいまちを支える社会基盤の実現のため、地域交通ネットワークの整備を進める
- 計画期間 平成29年度～平成38年度
- 将来像 地域の拠点や商業施設、病院、駅等をつなぐ公共バスを運行するとともに、利便性を向上させ利用者を増加させる

【葛城市第二次総合計画より抜粋】

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付して下さい。

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○評価の基本的な考え方

P D C Aサイクルによる評価、改善を実行することで、変化に応じた継続的な改善を図る。

○評価指標

公共バスの年間利用者数

平成34年度 55,000人

平成38年度 60,000人

【葛城市第二次総合計画より抜粋】

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

葛城市第二次総合計画（平成28年度策定）及び葛城市生活交通ネットワーク実施計画（平成27年度策定）に基づき事業を実施する。また、必要に応じて見直しを行う。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金	奈良交通株式会社	平成29年10月1日～平成30年9月30日	フ	公共施設（庁舎、福祉施設等）、鉄道駅、医療機関、商業施設を結ぶ路線を構築し、地域の生活交通の確保を行った。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
再策：再編計画策定事業、再推：再編計画推進事業

その他補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
バス現在地位置情報システム（バスロケシステム）	葛城市	平成29年4月～	バス現在地位置情報システムを導入したことにより、バスの現在の位置情報をインターネットにより知ることが可能となった。
インターネットサイト内検索	葛城市	平成29年8月～	ジョルダン、ナビタイムと契約したことにより、バスの時刻表をインターネットサイト内で検索することが可能となった。
「ぐるっとかつらぎ」協力企業とのタイアップ	葛城市	平成30年7月～	市内飲食店等や當麻寺等とタイアップし、バス利用者に対する特典サービスの提供を行うことによる利用促進を図った。

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標

4. 具体的取組に対する評価

平成29年4月からバス現在地情報システム（バスロケーションシステム）、平成29年8月からバス時刻表のインターネットサイト内検索を導入するとともに、市内飲食店等や當麻寺等とタイアップすることにより「ぐるっとかつらぎ」協力企業を募り、利用促進と利便性の向上に努めてきたが、目標値に掲げていた、環状線ルートにおける1日当たりの利用者数である100人を達成することはできず、当該年度内における1日当たりの利用者数は87.2人という結果となった。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
利便性の向上	バス利用者の利便性の向上を図るために導入した、バスロケーションシステムやバスの時刻表のインターネットサイト内検索については、サービスの提供を継続して行うこととし、市の広報誌やホームページで広く周知を行う。
利用促進	今後も継続して、市内飲食店等や當麻寺等とタイアップし、「ぐるっとかつらぎ」協力企業として、バス利用者に対する特典サービスの提供を行うことにより、バスの利用促進を図る。
運行ルートの変更	地域のための公共交通として、安定して継続し続けられるよう、平成30年9月に実施した「葛城市公共交通に関するアンケート調査」の結果を基として、平成31年度中での全面的なルートの見直しに向けた検討を行う。

葛城市地域公共交通活性化協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
公共交通の継続的な運行が求められる中で、その実現に向けた利用者の増加に向けた取組みが必要である。	バスロケーションシステムの導入、インターネット内検索の導入を行うことにより、利便性の向上と利用促進を図った。	利便性の向上と利用促進に関する取組みについては、今後も継続して実施するとともに、市の広報誌やホームページ等において広く周知を行っていく。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

平成29年4月に導入した、「バス現在地情報システム（バスロケーションシステム）」は、奈良県内の自治体としては初めてのことであり、また、平成29年8月には、インターネットを通じて、「ジョルダン」や「ナビタイム」のサイトからバスの時刻表を検索することが可能となるなど、現代の情報化社会に即したサービスの提供を継続して行うことにより、利便性の向上と利用促進に努めている。